

373

221

大社教本院編纂

婚禮式



始



373
221

婚禮式次第

神殿装束

婚禮式ハ神前ニテ行フヲ正儀トス若シ便宜私儀
ニ於テ行フ時ハ床ニ神號又ハ神籬ヲ設クベ

式場中央ニ天ノ御柱ヲ置ク

天ノ御柱ハ矛ニ瓊ヲ飾レルヲ云フ但櫛ニ
錦五色ノ絹又ハ紅白ノ絹ヲ垂レ鏡劍玉ヲ着
ルモヨシ

時刻伶人着座

但伶人ナキモ妨ナシ



大正
14. 9. 29
内交

次 婿婦及親族着座

二

但婿方ハ神前ニ向ヒテ右方ニ婦方ハ左方ニ着座圖ノ如シ

次 齋主以下祭員着座

此間奏樂

次 降神行事

但遙拜ノ式トスル時ハ降神ヲナサズ神饌モ豫メ備ヘ置ク

次 獻饌

此間奏樂

次 祓詞

祓ヒ給ヘ清メ給ヘト唱フル事三度

次 二拜拍手

次 大麻行事

次 撤饌

此間奏樂

次 昇神行事

次 祓戸ヲ撤ス

次 神殿捲簾

但私邸ニ於テヌル時ハ捲簾開扉ノ事ナシ

三

次 開扉

此間警蹕二聲

一同拜伏

次 二拜拍手

祭員應之

次 獻饌

此間奏樂

次 祝詞

一同拜伏

次 神語

祭員應之

幸魂奇魂守給幸給三唱

次 二拜拍手

祭員應之

次 神誠

但天ノ御柱ノ前ニ着キ婿婦ノ方ニ對ヒテ朗讀ス

次 婿天ノ御柱ノ左ヨリ神前ニ進ミテ誓詞ヲ

讀ミ玉串ヲ捧ゲテ拜禮畢テ天ノ御柱ノ右

ヨリ復座ス

但誓詞ハ讀マズシテ其儘玉串ト共ニ神前ニ捧グルモ妨ナシ

次 婦天ノ御柱ノ右ヨリ神前ニ進ミテ誓詞ヲ

讀ミ玉串ヲ捧ゲテ拜禮畢テ天ノ御柱ノ左

ヨリ復座ス

但書婿ニ同シ

次 饌長神前ニ進ム

次 祭員二名銚子提ヲ持チテ適宜ノ所ニ進ム

次 饌長一拜シテ神酒ヲ銚子提ニ移ス

次 祭員二名銚子提ヲ持チ退テ案上ニ置ク

但案ハ豫メ便宜ノ所ニ設ケ盃ハ案上ニ置ク

次 祭員一名神前ニ進ム

次 饌長御肴ヲ祭員ニ渡ス

但御肴ハ卷鯛結昆布ノ二種トス

次 祭員御肴ヲ持チテ退キ案上ニ置ク

次 夫婦盃ヲ取結ブ

祭員盃及銚子提御肴ヲ持チテ婿ノ前ニ至リ第一ノ盃ニテ神酒ヲ進メ次ニ御肴ヲ授ク（御肴ハ白紙ニテ包ミ懷中セシム以下之ニ同シ）次ニ加酌シテ一獻ヲ進メ終リテ祭員盃及銚子提御肴ヲ持チテ婿ノ前ニ至リ盃ヲ進メ御肴ヲ授ク更ニ加酌シテ第二ノ盃ニテ一獻ヲ進メ終リテ祭員盃及銚子提御肴ヲ持チテ右方ヨリ天ノ御柱ヲ廻リ又婿ノ前ニ至リ第二ノ盃ヲ進メ御肴ヲ授ケ加酌シテ更ニ第三ノ盃ヲ進メ終リテ其盃ヲ婦ニ廻スコト前ノ如クシテ一獻ヲ進メ

御肴ヲ授ケ次ニ加酌シテ再ビ一獻ヲ進メテ此儀終ル

此間奏樂

次

親子盃ヲ取結ブ

祭員盃及銚子提御肴ヲ持チ婿ノ父ノ前ニ進ミ盃ヲ進メ御肴ヲ授ク（御肴ハ白紙ニテ包ミ懷中セシム）父一獻終レバ祭員盃及銚子提ヲ持チ右方ヨリ天ノ御柱ヲ廻リテ婿ノ前ニ到リ婦ニ其盃ヲ進メ御肴ヲ授ク婦一獻終レバ祭員前ノ如クシテ右方ヨリ天ノ御柱ヲ廻リテ又婿ノ父ノ前ニ到リ一獻セシム是ニテ婿ノ父ト婿ト

八

ノ親子盃ノ儀終ル婿ノ母ト婦又婿ノ父母ト婿トノ盃ハ婦ト婿ノ父トノ盃事ノ如クス

此間奏樂

次

親族一同ニ神酒御肴ヲ授ク

此間奏樂

次

婿婦謝恩ノ爲メ更ニ神前ニ進ミテ拜禮

此時齋主縁結御守ヲ婿婦ニ授ク

次

親族惣代二名玉串ヲ捧ゲテ拜禮

但婿ノ方ヨリ一名婦ノ方ヨリ一名トス

次

撤饌

九

此間奏樂

+

次 二拜拍手

祭員應之

次 閉扉

此間警蹕二聲

一同拜伏

次 垂簾

但私邸ニ行フ時ハ閉扉垂簾ノ事ナシ

次 齋主當日ノ賀詞ヲ述ブ

次 一同退座

此間奏樂

祓 詞

掛卷毛かひまくも恐伎おそわざ被戸はらひ四柱よはしら乃皇神等のみがみたち乃字頭のうづつ乃大前のたまへ乎遙爾はるか拜美をら奉まつ
 里天りて恐美おそみ恐美おそみ毛白もしろ左久さひさ今日けふ波之はし毛姓某刀もせい某乃姓某子のせい某乃婚嫁よめ乃式しき
 仕奉つかへまつ留爾るに依里より天津宮事あまつみやご乃制乃のり隨爾まに被乃はらひ神事のかみ仕奉つかへまつ良久らひさ乎相あひ
 諾比うづなひ聞食ききめ之豆事のまめごと執仕つか布留ふる教師かみ乎始はし米參めま來列きり里關ら留人るひと等ども
 我思がおも波受はす識受しらす受之うけて豆身まめ爾觸にふ禮麻れま自許よこ禮留れ諸乃もろ汚穢けが有良武爾あらむに波は
 科戸しなご乃風のかぜ乃天のあめ乃八重雲やへぐも乎吹拂ふきほら布事ふごと乃如久ごとく茂木しげき我本がもと乎敏錄とみり
 以豆て刈里かり拂布事はらふごと乃如久ごとく被比はらひ給比たまひ清米きよめ給比たまひ豆婚嫁まめよめ乃典のり乃本末もとすえ
 清久美きよくみ之久のひさ仕竟つかへ之米のめ給閉刀たまへ恐美おそみ恐美おそみ毛白もしろ須す

祝詞

掛卷毛畏伎伊邪那岐大神伊邪那美大神大國主大神須勢理毘賣大神產土大神乃宇豆乃大前爾齋主職姓名畏美畏美毛白左久八十個日波在禮杼毛今日乎生日乃足日刀齋比定米位勳爵何某乃媒酌爾依里天位勳爵何某伊何某子刀妹背乃盃結之氏婚嫁乃式乎行布爾依里禮代乃幣帛刀御饌御酒海川山野乃種々乃物乎机代爾置足波之且稱辭竟奉良久古天地乃初乃時天津神諸乃命乃隨々爾伊邪那岐大神伊邪那美大神妹脊二柱嫁繼給比豆國乃八十國島乃八十島八百萬乃神等乎生美給比天萬乃物乃蕃息里榮由倍伎事乃始乎

定米給比伎故御子神等各毛各毛掌里分介坐須事乃中爾毛大國主大神波嫡后須勢理畏賣大神刀相併毘天島乃崎々磯乃崎落受國造里造里堅米萬乃事乎始米給比萬乃物乎作里給比天今爾至留麻傳宇奈賀計里天鎮里坐須故此乃惟神乃大道乃隨爾天爾日月在留如國爾山川在留如夫婦相匹比相並毘天身乎毛家乎毛治米固米成須倍伎物刀定禮留則乃隨々爾今何某何某子等我新爾契里結倍留毛是即且大神等乃導伎幸倍給布事刀奈毛尊美畏美仰伎奉留故此乃大前爾之毛宇伎由比之誓比交之拜美仕奉留事乃狀乎平介久安介久聞食之宇豆奈比坐之且夫婦相共爾壽命長久務米縮里天祖乃名穢左受氏乃名落左受家門高久廣久起左之米給比子孫乃八十連續

乎毛五十櫃八桑枝乃如久立榮延之米給開刀畏美畏美毛白須

神 誠

夫婦婚嫁の道は天つ神の大神に依りて伊邪那岐伊邪
邪美二柱の大神の創め給ひ定め給へるものにして人
生の大本萬業の元始なり抑々天神造化の首を爲し給
へるに高皇產靈大神神皇產靈大神自ら男女の神徳を
具へ給ひ天地と相對ひて萬物の生り出る大元始を立
て給ひ伊邪那岐伊邪那美二柱の大神に此の漂蕩へる
國を修理り固め成せし事依し給へるを以て二柱の大
神は天の御柱を左右より廻り遇ひ給ひ久美度に興し

て國をも神をも生み成し給ふに其始を正しくし遂に
其終りを全くして大徳を遺し給へり是よりして萬物
蕃殖り榮へて天地の共極りなき理既に定れり人世の
夫婦の道は即ち此御神蹟に神習ふ大典にして天に日
月あるが如く國に山川在るが如く必ず如此在るべき
者なり又其相對ふ状も夫は天の如く婦は地の如し天
地の初發にも天先づ生りて地後に定れる序に遵ひて
婦は夫の先に立つべからざる道理をも思ふべく然り
さて伊邪那岐伊邪那美二柱の大神も大國主大神須勢
理毘賣大神も相併びて内外に立ちて造化の大徳を成
し給ふに習ひて夫も又婦を侮り輕しむ可らざる事を

能く思ふべし然れば夫婦は互に心の隔をなさず和ら
ぎ親しむを主として樂しき事も苦しき事も諸共にな
すべし又各其身を修むる事を忘れず婦は貞操の重き
事は云ふも更なれど嫉妬の心を特に慎しむべく夫は
驕傲の振舞あるべからざるは素よりなれど特に淫行
を慎しむべし昔より貴きも賤しきも閨門の修らざる
より大なる禍害を引き起せる例尠なからず家の起る
も廢るも夫婦より始り國の治まるも亂るるも男女よ
り起る慣多ければ最も慎しむべきは夫婦の中と知る
べきなり然れば夫婦の道は天つ神の創め給ひ遺し給
へる天業を繼ぐものにして人の世の中に特に重く大

なる典なれば輕々しく思ふべきに非ず又一度結べる
契は是れ即て大神等の導き授け給へる縁ある中なれ
ば互に意の合ひ適はざる事あらむも耐へ忍び目の前
の小さき事をば捨てゝ家のために身のために遠く大
なる事に心を留めて後の悔なからむ事を互に能く思
ひ回らす可きものなり

誓詞婿

(自署)

掛卷もかしこき伊邪那岐大神伊邪那美大神大國主大
神須勢理毘賣大神產土大神の宇豆の大前にかしこみ
かしこみ誓ひ奉らく「某」は「某子」と夫婦婚嫁の式を行ふ

十八
さして大神等の大前ををろびみ奉り契り堅め結盃し
て仕へ奉らくは惟神の本つ教に背く事なく夫婦の大
道に違ふ事なく清き赤き誠の心に勤め締りて己が向
向せず入れ紐の同じ心に睦び愛はしみつゝ夫婦の中
には如何なる憂き事あらむも堪へ忍びてあひ扶けあ
ひ守らむ「某」はや男にはあれども「某子」を置てあだし
心を持つことなく異しき行ひを爲すこと無く玉の緒
の長く久しき相背かじこ誓ひ奉らくを若し此の誓に
悖るここのあらむには咎め給ひ罰め給へこまをす事
を聞こし食せこ恐み恐みも白す

年 月 日

爵位 姓 名

誓詞婦

(自署)

掛巻もかしこき伊邪那岐大神伊邪那美大神大國主大
神須勢理毘賣大神産土大神の宇豆の大前にかしこみ
かしこみ誓ひ奉らく「某子」は「某」の妻となりて婚嫁の式
を行ふに依り大神等の大前ををろびみ奉り契り堅め
結盃して仕奉らくは惟神の本つ教に背く事なく夫婦
の大道に違ふ事なく清き赤き誠の心に勤め締りて己
が向向せず入れ紐の同じ心に睦び愛はしみつゝ夫婦
の中には如何なる憂き事あらむも堪へ忍びてあひ扶
けあひ守らむ「某子」はや女にしあれば「某」を置てあだ

二十
 こころを持つ事なく異しき行ひを爲すこと無く玉の緒
 の長く久しく相背かじと誓ひ奉らくを若し此の誓に
 悖るここのあらむには咎め給ひ罰め給へこまをす事
 を聞こし食せと恐み恐みも白す

年 月 日 姓 名

祓 神 饌 三 臺

洗 米 神 酒 二 瓶 水 鹽

婚 禮 式 神 饌 十 臺 或 八 十 二 臺

洗 米	神 酒 二 瓶	海 魚 二 尾
川 魚 二 尾	鳥 一 雌 雄	鏡 餅 紅 白
野 菜 甘 菜 辛 菜	海 藻 奥 津 藻 菜 邊 津 藻 菜	卷 鯛 結 昆 布 合 盛
菓	水 鹽	

右魚菜類ハ婚禮ニ忌ムベキ名アル物ハ習慣ノ通
 リ忌ミ避クルヲ可トス

婚禮式奉仕者人員

齋主 副齋主 祭員三名 伶人三名
但人員ハ増減スルモ妨ナシ

婿婦ハ適宜日ヲ定メテ大社教本院若クハ東京分
祠又ハ各地方分院教會所産土神社ニ參拜スベシ

參拜ノ次第

當日豫メ神殿ヲ裝束ス

時刻婿婦參向

- 次 齋主以下祭員着座
- 次 婿婦着座
- 次 大麻行事
- 次 捲簾
- 次 開扉

祭員應之

次 二拜拍手

次 獻饌

次 謝恩詞

祭員應之

次 祝詞

一同拜伏

次 神語

祭員應之

次 二拜拍手

祭員應之

次 玉串案ヲ出ス

次 婿婦玉串ヲ捧ゲテ拜禮ス

次 玉串案ヲ撤ス

次 撤饌

祭員應之

次 二拜拍手

次 閉扉

次 垂簾

次 婿婦ニ神酒洗米ヲ拜戴セシム

次 各退座ス

謝恩詞

掛卷毛恐伎大神乃大前爾恐美恐美母白佐久大神乃廣伎厚伎
 恩賴爾因豆食物衣物住所乎始米萬事等求牟留任爾得之米
 給比勤牟留任爾成之米給比親族家族和毘睦毘日爾殊爾心
 安久樂之久撫給比守里給比豆現世乎去奴留後乃魂毛永久爾
 治米給比惠美給比幽冥乃制度乃隨爾神乃列爾入之米給比裔
 乃彌次々乎母守里幸閉奴倍久安那々比給比助介給比豆現世
 毛幽冥毛樂之美歡比乃變留事無久盡留事無久惠美給比愛之
 美給波牟事乎嬉之美辱奈美稱言竟奉良久乎御心毛平和加爾
 聞食世登恐美恐美母曰須

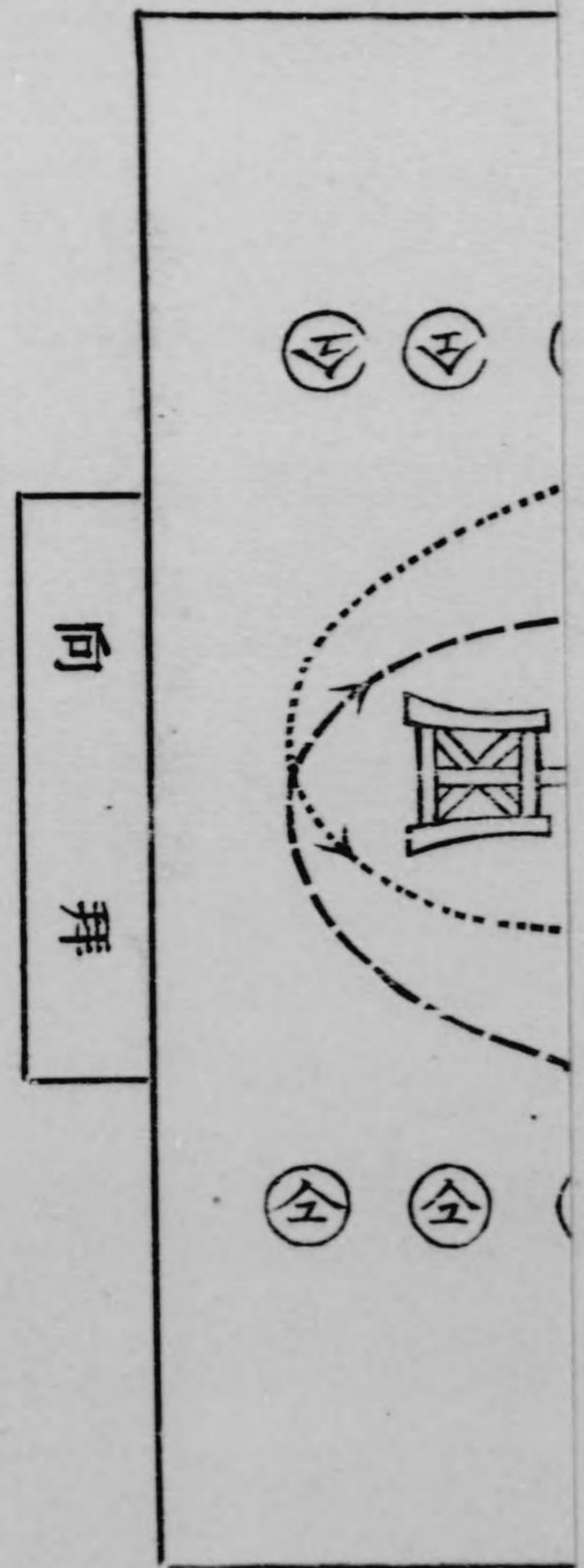
參拜祝詞

掛卷毛畏伎伊邪那岐大神伊邪那美大神大國主大神須
 勢理毘賣大神產土大神乃宇豆乃大前爾齋主職姓名畏美
 畏美毛白左久今回何某伊何某子乃夫婦乃契結比固米豆過
 爾之日爾大神等乃神靈乎齋比拜美式乃隨々爾誓比交之宇伎
 由比之豆事定里奴故今日乃生日乃足日爾夫婦相共爾是乃
 大前乎拜美仕奉留爾依里禮代乃幣帛捧介慎美敬比拜美奉留
 事乃狀乎平介久安介久聞食天今日與里後遠長爾結閉留契
 弛布事無久誓乃詞變留事無久勤米縮里蕃息里榮衣武生乃
 子乃末懸且身乎毛家乎毛守里幸倍撫愛之美給比且家門彌

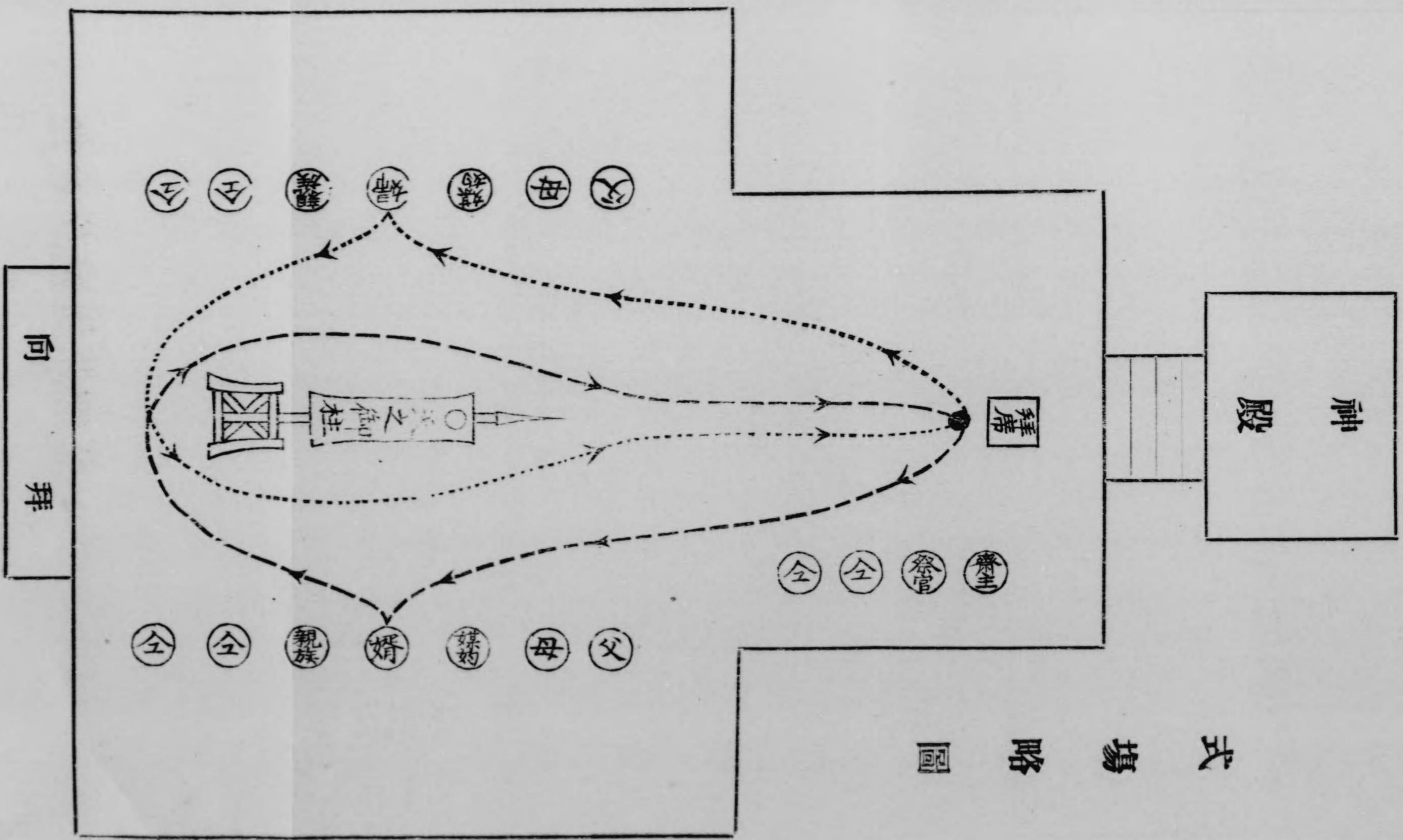
高爾家乃名彌廣爾嚴八桑枝成須立榮之米給閉止畏美畏美
 毛白須

神語

幸魂奇魂守給幸給



式場略圖



296
241

大正六年二月十五日印刷
大正六年三月一日出版
大正十年一月三十日再版
大正十四年九月二十五日三版

鳥根縣 鏡川郡 大社町

大社 教本院

鳥根縣 鏡川郡 大社町 大字 杵築南千四十七番地

坪内 清樹

鳥根縣 鏡川郡 大社町 大字 杵築南千四番地

福間 武次郎

鳥根縣 鏡川郡 大社町 大字 杵築南千四番地

福間 印刷所

印刷所
印刷人

終

